

エンジニアリングプラスチック製
ねこ土台型免震装置「ねこ免震」
共通仕様書 同解説

2025. 6. 1

Ver. 1

新築・リフォーム

木造軸組構法/木造枠組構法（ 2×4 、 2×6 ）

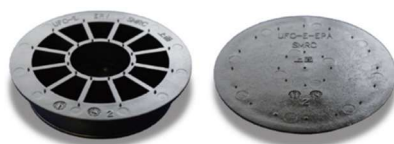
通気型/基礎断熱（床下断熱）

エンブラ UFO-E

ねこ免震パッキン

共通

第Ⅱ章 木造軸組構法 設計・施工基準



UFO-EPV

UFO-EPA



CAT-V12

CAT-EPV



CAT-EPA

SMRC 株式会社

目次

目次	2
第Ⅱ章 木造軸組構法 設計・施工標準	
Ⅱ-I、エンブラ UFO-E	3
1、「UFO-E-EPV」及び「UFO-E-EPA」の標準規格	3
2、アンカーボルト、ナット、座金及び削孔径の規格	4
3、ホールダウン金物用アンカーボルトの規格	5
4、アンカーボルト孔の土台削孔及び緊結法	5
5、エンブラ UFO-E、施工標準図	6
6、UFO-E-EPV 及び UFO-E-EPA の固定方法	7
7、UFO-E-EPV 及び UFO-E-EPA の標準設置数量の算定	7
8、UFO-E-EPV 及び UFO-E-EPA の詳細設置数量の算定	7
9、柱下設置数が多い場合の優先順位	10
10、上下摩擦板がずれた場合の措置	11
11、レベラーの強度及び不陸調整板等の使用は原則禁止	11
Ⅱ-II、ねこ免震パッキン	12
1、ねこ免震パッキン「CAT-EPV」及び「CAT-EPA」の標準規格	12
2、アンカーボルト、ナット、座金及び削孔径の規格	13
3、ホールダウン金物用アンカーボルトの規格	14
4、ねこ免震パッキン、施工標準図	14
5、ねこ免震パッキンの固定方法	15
6、アンカーボルト孔の土台削孔	15
7、ねこ免震パッキンの設置個所	16
8、レベラーの強度及び不陸調整板等の使用は原則禁止	16

第Ⅱ章 木造軸組構法 設計・施工標準

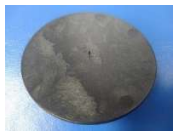
Ⅱ-I、エンブラ UFO-E

エンジニアリングプラスチック製本格摩擦アイソレーターとして設計されたもので、3階建て建物、構造計算を伴う大型建物、注文住宅など、データーの保存を必要とするものに適するが、一般建物、戸建て分譲建物に使用しても良い。

1、「UFO-E-EPV」及び「UFO-E-EPA」の標準規格

- (1) エンブラ「UFO-E」の部材構成は、エンジニアリングプラスチック製、旭化成-変性PPE「XYRON™FG70H開発材」とし、 $\phi 90\text{mm}$ ～ $\phi 75\text{mm}$ の摩擦円盤で構成され、SMRCマーク及び製造年月が明記されているものを使用する。
- (2) エンブラ UFO-E の上下摩擦板を仮固定方法は中央孔へ $\phi 1.2\text{mm}$ のピン（突起）の挿入に依ってなされ、地震力が加わった時に摩擦抵抗より小さい荷重（ $\approx 60\text{N}$ ）で切断され、切断された後もそのまま UFO-E の分散免震機能は維持される。
輸送中や土台敷の衝撃で固定ピンが切れた場合でも、UFO-E の概ね中心に上下をセットして使用するものとする。
- (3) 土台敷設中に上下の固定ピンが切れて、上下の中心を1cm以内に合わせることが困難な場合は、木材を傷つけない形状の平バール等を使い土台を数mm持ち上げて UFO-E 摩擦板の中心の芯ずれを修正する。

エンブラ UFO-E、形状写真



左：（EPA, EPV 共通）
下部摩擦板
中央に仮固定突起



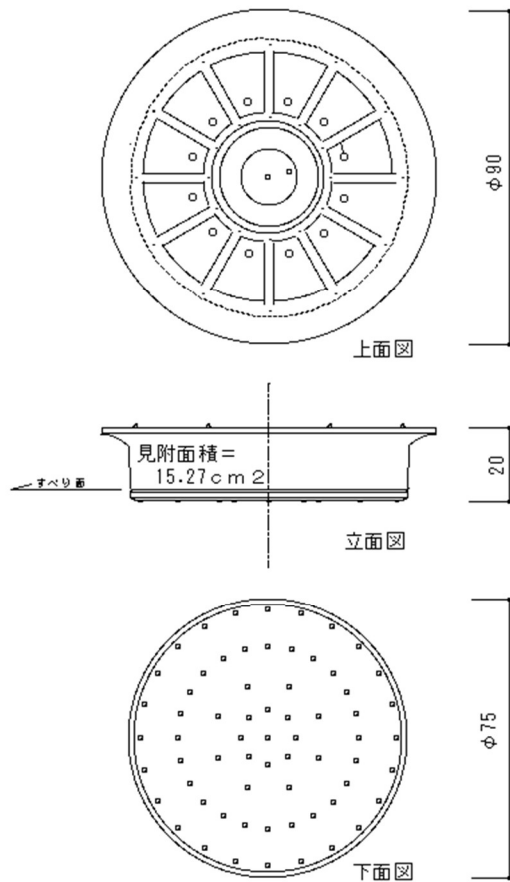
中：UFO-E-EPV
床下通気用



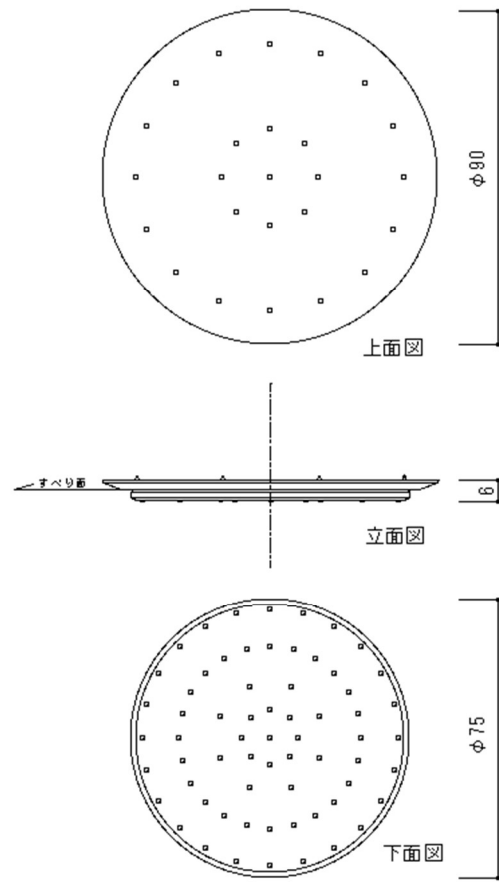
右：UFO-E-EPA
基礎断熱用

※補強ガラス繊維の混入でフローマーク（湯流れ模様）が強く出るのが特徴。

エンプラ UFO-E-EPV 図面

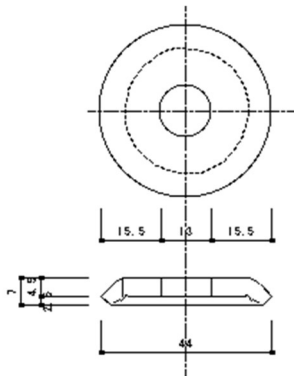


エンプラ UFO-E-EPA 図面



2、アンカーボルト、ナット座金及び削孔径の規格

- (1) アンカーボルトは、M12、JIS B1180 及び JIS B1051 強度区分 4.6 (Z マーク金物) 及び同等品以上を標準とする。
- (2) 土台緊結に使用する「めり込み座金」は $\phi 45$ 厚 4.5 mm SMRC 株式会社製「CAT-FIXW」同等品以上とし、ナットは M12、緩み防止機能を施した、ナイロンナット同等品以上を使用するものとする。
- (3) 剛床・根太レス構法、2×4 プラットホームの土台緊結は、(2) による外、座金ナットはザボレス (株式会社タナカ製) 同等品以上とする。
- (4) アンカーボルト削孔径は $\phi 24$ とする。



めり込み座金



めり込み座金セット「CAT-FIXW」

3、ホールダウン金物用アンカーボルトの規格

ホールダウン金物に使用するアンカーボルト孔及びアンカーボルトの仕様は次による。

- (1) ホールダウン金物に使用するアンカーボルトは、M16、JIS B1180 及び JIS B1051 強度区分 4.6 (Z マーク金物) 及び同等品以上を標準とする。
- (2) アンカーボルト M16 の孔径は、 $\phi 28$ を標準とする。
- (3) 柱内及び特殊金物によるホールダウン金物にねこ免震を装着する場合は、免震効果を検討の上、設計者が決定する。

4、アンカーボルト孔の土台削孔及び緊結法

ねこ免震の免震効果に有効なアンカーボルト孔の土台削孔及び緊結法は次による

- (1) 根太床組の削孔は $\phi 24$ 錐を使い、削孔位置の精度を上げるため、下から削孔を原則とし、インパクトドライバー用の水平器又は垂直補助具を使用して良い。

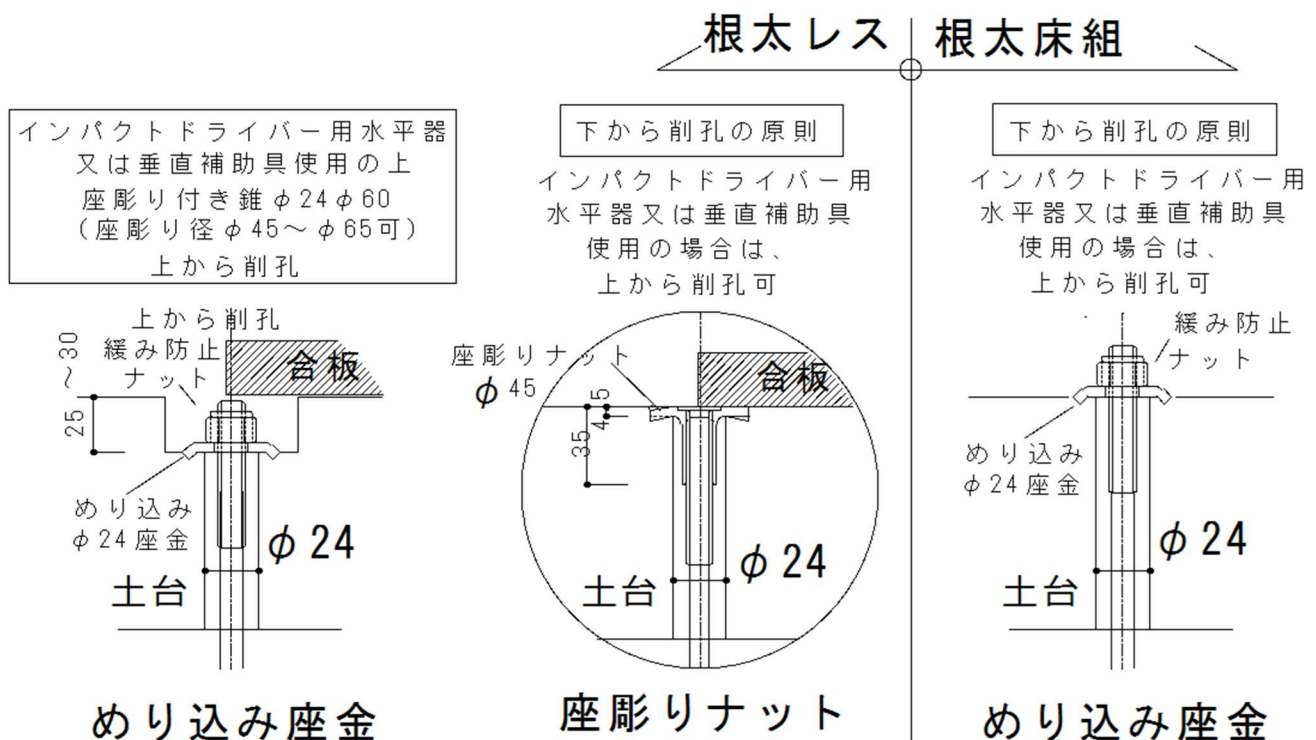
緊結法は、めり込み座金「CAT-FIXW」及び緩み防止ナット（ナイロンナット）により 3mm 程度木部に食い込む用にインパクトレンチ等で締め付ける。

- (2) 剛床、根太レス、 2×4 プラットホーム床組みに「座彫りナット」を使用する場合の削孔は、 $\phi 24$ 錐を使い、削孔位置の精度を上げるため、下から削孔を原則とし、インパクトドライバー用の水平器又は垂直補助具を使用して良い。

緊結法は座彫りナットメーカーの指定器具及び仕様により緊結する。

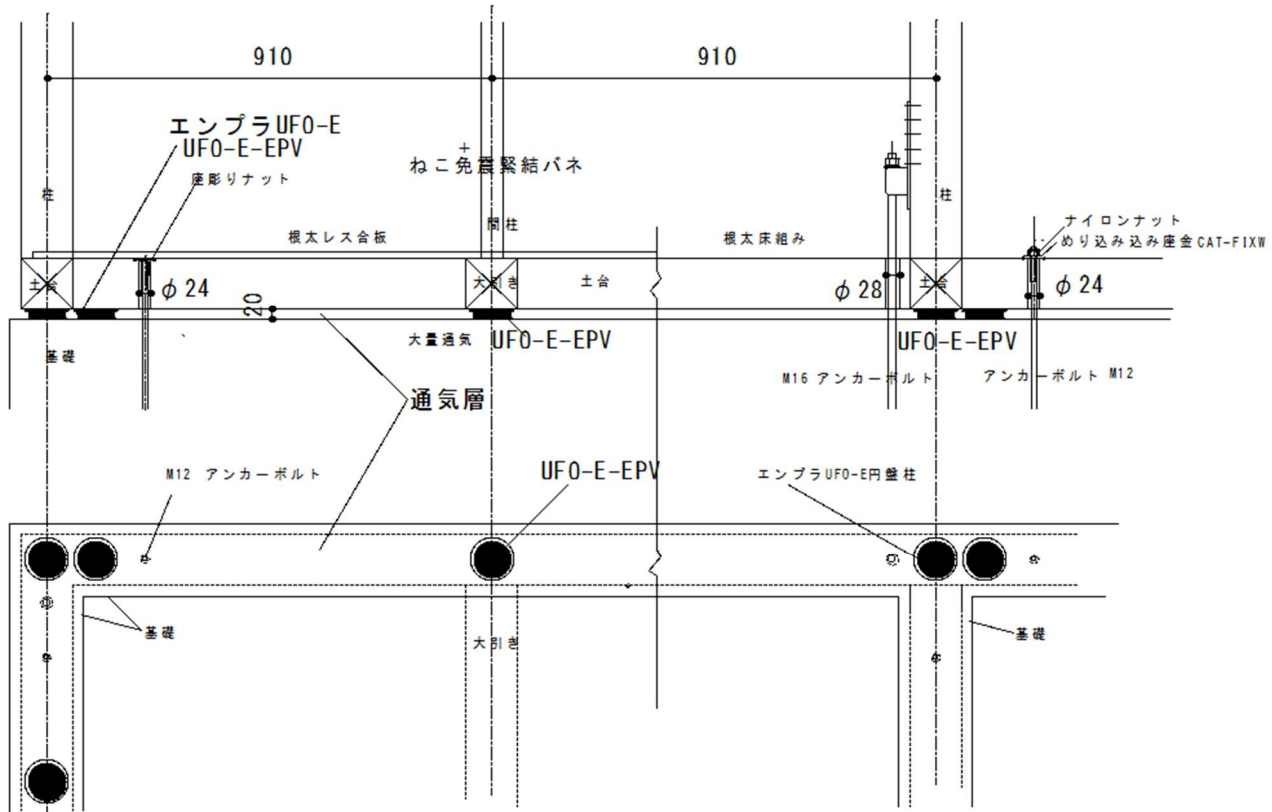
- (3) 剛床、根太レス、 2×4 プラットホーム床組みに「座彫り付き錐」を使い施工性を向上させる場合は、 $\phi 24$ 錐に座彫り部 $\phi 45 \sim \phi 65$ の錐を組み込んだ複合錐を使い、削孔位置の精度を上げるため、インパクトドライバー用の水平器又は垂直補助具を使用して垂直を維持しながら削孔する。

緊結法は、めり込み座金「CAT-FIXW」及び緩み防止ナット（ナイロンナット）により 3mm 程度木部に食い込む用にインパクトレンチ等で締め付ける。

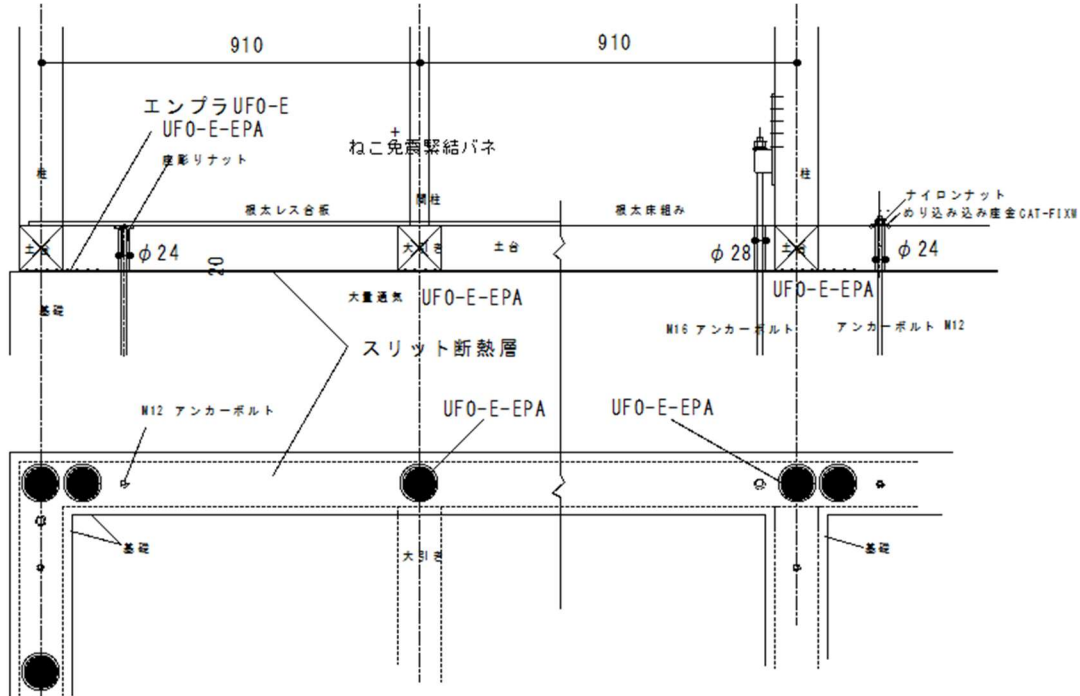


5、エンブラ UFO-E、施工標準図

(1) 床下通気、UFO-E-EPV

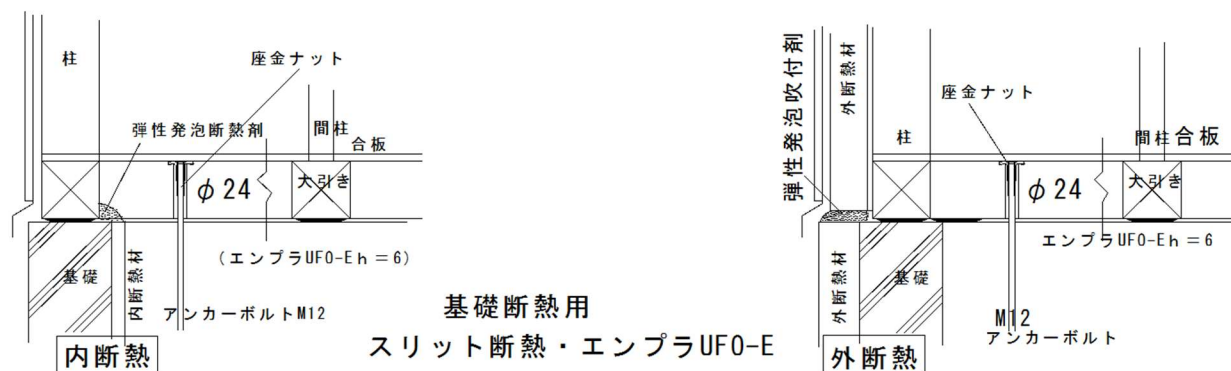


(2) 基礎断熱、UFO-E-EPA



(3) 基礎断熱用、スリット断熱標準仕様

- ① 「UF0-E-EPA」を使用し、基礎断熱仕様とするときは、基礎と土台の間にエンブラ UF0-E の厚さ、6 mmのスリットを確保し、内部結露の防止と木材の乾燥を図る。
- ② 断熱材は弾性発泡吹付断熱剤等、5～7 mm程度のスライドに追従するものとする。
- ③ 弾性発泡吹付断熱剤を吹き付ける場合には、基礎断熱パネル等がある側に図示のように吹き付ける。
- ④ 土台の断熱効果が期待できるので、土台の目視監視ができるように土台が隠れるほど吹き付けないものとする。
- ⑤ お風呂場の寒さ対策は、浴室の壁、床下、バスタブ等の断熱で対処するものとし、部分的に床下基礎断熱で処理する場合は、設計者及び工事監理者の承諾を得て、防腐、防腐処置をしたうえ、ねこ免震標準仕様書基礎断熱仕様と同等以上とし、木材乾燥に留意し、メンテナンス可能な構造とする。



6、UF0-E-EPV 及び UF0-E-EPA の固定方法

基礎天端面の汚れを落とした後、UF0-E の下裏面（ $\phi 75$ の小さい径が下）中央部分の表面に酢酸ビニール系接着剤セメダインコンクリメント同等品以上を 1 cm^2 程度ぬり着け（下裏面に 0.25 mm の突起高さの厚さで、 $2 \sim 3 \text{ cm}^2$ 程度に広がる程度）、UF0-E の下裏面接着面を基礎に置いた状態で基礎に接着させる。

7、UF0-E-EPV 及び UF0-E-EPA の標準設置数量の算定

- (1) 「UF0-E-EPV」（床下通気用）の標準設置箇所は、全ての柱に2個設置するものとし、柱上部に架かる「梁せい」が 240 mm 以上の場合は梁1本につき1個追加して設置する。
- (2) 「UF0-E-EPA」（基礎断熱用）の標準設置箇所は、全ての柱に2個設置するものとし、柱上部に架かる「梁せい」が 300 mm 以上の場合は梁1本につき1個追加して設置する。
- (3) UF0-E-EPV 及び UF0-E-EPA とも、土台つなぎ下及び、大引き受け土台下に設置する。

8、UF0-E-EPV 及び UF0-E-EPA の詳細設置数量の算定

3階木造建物、構造計算を伴う大型木造建物、注文住宅及び、データーの保存を必要とする

ものは次による。

何れも、構造計算書の柱長期軸力及び各柱に架かる梁せいの入力で自動計算できる別途、エクセルテンプレートを使用することができる。(エクセルテンプレート利用マニュアル参照)

(1) UF0-E-EPV 仕様で、構造計算等により信頼のできる長期柱軸力データがある場合

- ①、各柱の表記長期柱軸力に、安全率 1.5 を乗じた数値を、UF0-E-EPV 標準めり込み強度 10KN/個を超えない範囲とする。

(計算式) 柱下 UF0-E 設置個数 = (柱軸力 × 1.5) / 10KN (切り上げ)

- ②、設置個所は、柱下勝土台の、軸力影響範囲 (柱端から 45 度下方) に UF0-E-EPV の半分以上掛かるものとし、アンカーボルト表面からの離隔は 10mm 以上とする。
- ③、勝土台を優先に設置して置ききれない場合は、負け土台の柱近くに設置する。
- ④、基礎天端上の土台の繋ぎ部分の下に 1 個を設置する。
- ⑤、基礎天端上で、両方、又は片方に大引 (90 角根太含む) が付く土台の概ね芯下に 1 個を設置する。
- ⑥、設計図書に設置位置の明記がある場合、及び、工事 (設計) 監理者の指示がある場合はそれに従う。
- ⑦、①～③による所定数量が設置できない場合は、もともと軸力分散に有効な半割以上の筋交い等が柱頭部ある場合、又は、無い場合でも柱頭部に半割以上の筋交等を設置した場合は、軸力範囲を超えて設置できる。
- ⑧、⑦により設置数量が取り付かない場合は、頬杖、火打ち、ブラケット材等を柱脚部に設置した場合は、柱からそれらの軸力影響範囲まで、範囲を広げて設置できる。
- ⑨、⑦～⑧の軸力分散及び補強の措置を取る場合は、工事監理者の承認を得るものとする。

(2) UF0-E-EPV 仕様で、設計図書等に長期柱軸力データが無い場合

- ①、全ての柱の個所の土台下に最低 1 個設置するものとし、その柱頂部の 4 面に取り付く各々の梁及び桁のスパンが 910 モジュールの場合は 1365 以上 (他のモジュールで 1000 以下の場合はそのモジュールの 1.5 倍) のスパン、又は、柱に取り付く梁及び桁が跳ねだし梁 (カンチレバー) の場合で、かつ、その跳ね出し梁及び桁に上階の柱が建つ場合は、跳ね出し長さに関係なく、(表-3-1) の土台材種別表の梁背に応じた追加個数をその柱の設置個数に追加する。
- ②、設置個所は、柱下勝土台の、軸力影響範囲 (柱端から 45 度下方) に UF0-E-EPV の半分以上掛かるものとし、アンカーボルト表面からの離隔は 10mm 以上とする。
- ③、勝土台を優先に設置して置ききれない場合は、負け土台の柱近くに設置する。
- ④、基礎天端上の土台の繋ぎ部分の下に 1 個を設置する。
- ⑤、基礎天端上で、両方、又は片方に大引 (90 角根太含む) が付く土台の概ね芯下に 1 個を設置する。
- ⑥、2 階建て部分の平面上の出隅部分の柱は 2 個以上とする。
- ⑦、設計図書に設置位置の明記がある場合、及び、工事 (設計) 監理者の指示がある場合はそれに従う。

⑧、①～③による所定数量が設置できない場合は、もともと軸力分散に有効な半割以上の筋交い等が柱頭部ある場合、又は、無い場合でも柱頭部に半割以上の筋交等を設置した場合は、軸力範囲を超えて設置できる。

⑨、⑧により設置数量が取り付けられない場合は、頬杖、火打ち、ブラケット材等を柱脚部に設置した場合は、柱からそれらの軸力影響範囲まで、範囲を広げて設置できる。

⑩、⑧～⑨の軸力分散及び補強の措置を取る場合は、工事監理者の承認を得るものとする。
柱下設置基準（表-3-1）

（表-3-1）UFO-E-EPV用				
土台材種	スパン	1365以上		追加個数
あかまつ、くろまつ			180	0.6
べいまつ	梁	210	～ 300	1
からまつ、ひば、		330	～ 420	1.5
ひのき、べいひ	背	480	～ 540	2
高強度材全般		600以上～		2.5

（3）UFO-E-EPA 仕様で、構造計算等により信頼のできる長期柱軸力データがある場合

①、各柱の表記長期柱軸力に、安全率 1.5 を乗じた数値を、UFO-E-EPA 標準めり込み強度 15KN/個を超えない範囲とする。

（計算式）柱下 UFO-E 設置個数＝（柱軸力×1.5）/15KN（切り上げ）

②、設置個所は、柱下勝土台の、軸力影響範囲（柱端から 45 度下方）に UFO-E-EPA の半分以上掛かるものとし、アンカーボルト表面からの離隔は 10mm 以上とする。

③、勝土台を優先に設置して置ききれない場合は、負け土台の柱近くに設置する。

④、基礎天端上の土台の繋ぎ部分の下に 1 個を設置する。

⑤、基礎天端上で、両方、又は片方に太引（90 角根太含む）が付く土台の概ね芯下に 1 個を設置する。

⑥、設計図書に設置位置の明記がある場合、及び、工事（設計）監理者の指示がある場合はそれに従う。

⑦、①～③による所定数量が設置できない場合は、もともと軸力分散に有効な半割以上の筋交い等が柱頭部ある場合、又は、無い場合でも柱頭部に半割以上の筋交等を設置した場合は、軸力範囲を超えて設置できる。

⑧、⑦により設置数量が取り付けられない場合は、頬杖、火打ち、ブラケット材等を柱脚部に設置した場合は、柱からそれらの軸力影響範囲まで、範囲を広げて設置できる。

⑨、⑦～⑧の軸力分散及び補強の措置を取る場合は、工事監理者の承認を得るものとする。

（4）UFO-E-EPA 仕様で、設計図書等に長期柱軸力データが無い場合

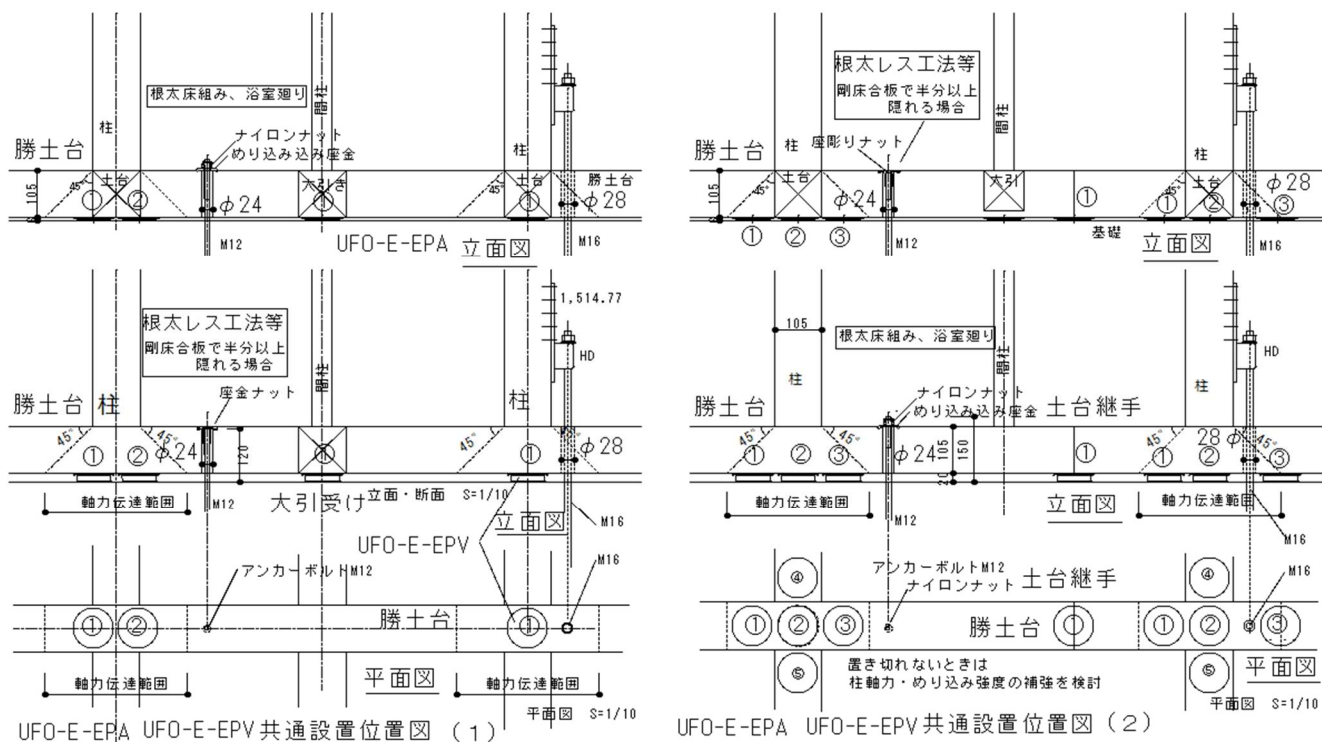
①、全ての柱の個所の土台下に最低 1 個設置するものとし、その柱頂部の 4 面に取り付く各々の梁及び桁のスパンが 910 モジュールの場合は 1365 以上（他のモジュールで 1000 以下の場合はそのモジュールの 1.5 倍）のスパン、又は、柱に取り付く梁及び桁が跳ねだし梁（カンチレバー）の場合で、かつ、その跳ね出し梁及び桁に上階の柱が建つ場合は、跳ね出し長さに関係なく、（表-3-2）土台材種別表の梁背に応じた追加個数により別表の梁背に応じた個数を端数切り上げた数量とする。

- ②、設置個所は、柱下勝土台の、軸力影響範囲（柱端から 45 度下方）に UFO-E-EPA の半分以上掛かるものとし、アンカーボルト表面からの離隔は 10mm 以上とする。
 - ③、勝土台を優先に設置して置ききれない場合は、負け土台の柱近くに設置する。
 - ④、基礎天端上の土台の繋ぎ部分の下に 1 個を設置する。
 - ⑤、基礎天端上で、両方、又は片方に大引（90 角根太含む）が付く土台の概ね芯下に 1 個を設置する。
 - ⑥、設計図書に設置位置の明記がある場合、及び、工事（設計）監理者の指示がある場合はそれに従う。
 - ⑦、①～③による所定数量が設置できない場合は、もともと軸力分散に有効な半割以上の筋交い等が柱頭部ある場合、又は、無い場合でも柱頭部に半割以上の筋交等を設置した場合は、軸力範囲を超えて設置できる。
 - ⑧、⑦により設置数量が取り付かない場合は、頬杖、火打ち、ブラケット材等を柱脚部に設置した場合は、柱からそれらの軸力影響範囲まで、範囲を広げて設置できる。
 - ⑨、⑦～⑧の軸力分散及び補強の措置を取る場合は、工事監理者の承認を得るものとする。
- 柱下設置基準（表-3-2）

（表-3-2）UFO-E-EPA用					
土台材種	スパン	1365以上			追加個数
あかまつ、くろまつ、べいまつ				180	0.3
からまつ、ひば、ひのき	梁	210	—	360	1
べいひ	背	390	—	540	1.5
高強度材全般		600以上—			2

9、柱下設置数が多い場合の優先順位

- （1）エンブラ UFO-E の設置優先順位は、①柱直下、②勝ち土台の軸力影響範囲（柱端から下方へ 4 5 の範囲）に本体の半分以上かかる位置、③負け土台の順に設置する。
- （2）設置個所参考図面



10、上下摩擦板がずれた場合の措置

台直し、締付、土台芯の修正等の衝撃による UFO-E の上下の摩擦板のズレの許容範囲は 10 mm 以内とし、それを超えてずれた場合は修正して再度ナット類を締め直す。

輸送中等で設置前に上下摩擦板結合ピンが折れて外れた場合も同様に、ずれが 10 mm 以内になるように上下を重ねて設置する。

なお、この結合ピンは地震時に切れて上部摩擦板の結合孔に収納されてスライドし、スライド時に塵などが発生した場合には塵溝に収納されるので摩擦機能には支障は無い。

11、レベラーの強度及び不陸調整板等の使用は原則禁止

基礎天端レベラーを使用する場合は圧縮強度 28 日材齢 28N/mm²以上を標準とし、基礎面に不陸が確認された場合は直ちに補修をした後に、土台敷及びねこ免震材の敷設を施工する。

ただし、工事監理者が認めた場合は土台敷設時に市販のプラスチック製不陸調整プレートを使用できる。

Ⅱ-Ⅱ、ねこ免震パッキン

【使用範囲】は、構造計算を伴わない標準的な2階建てまでとするが、構造計算を伴う平屋、2階建て及び3階建て建物については、設計者及び工事監理者が指示又は許可した場合には使用できるものとする。

ただし、柱の長期軸力に応じて、材種は檜程度めり込み強度で、CAT-EPV (100×200) は 50.0 kN/個、CAT-V12 (100×120) で 30.0 kN/個、CAT-EPA (100×200) で 40.6 kN/個により、設置個数を決める。

1、ねこ免震パッキン「CAT-V12」「CAT-EPV」及び「CAT-EPA」の標準規格

ねこ免震パッキンの部材構成は、旭化成-ポリアミド 66「Leona™14G33」再生材同等品以上を使用するものとし、床下通気用「CAT-V12」の外形状は 100 mm×120 mm×13.25 mm（以降の表示は 13 mmとする）、床下通気用「CAT-EPV」の外形状は 100 mm×200 mm×13.25 mm（以降の表示は 13 mmとする）、及び、基礎断熱用「CAT-EPA」の外形状は 100 mm×200 mm×4.5 mm（以降の表示は 5 mmとする）で、それぞれ、SMRC マーク及び製造年月が明記されているものを使用する。

（1）床下通気標準



床下通気用「CAT-V12」 h = 13

主な機能

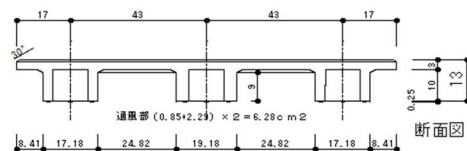
- ・摩擦アイソレーター機能（免震）
- ・シロアリ、カビ対策、高規格住宅等
- ・ネコ土台（見附面積=9.32 c m 2）



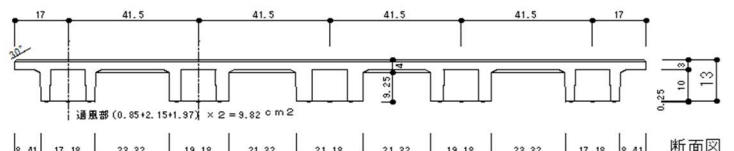
床下通気用「CAT-EPV」 h = 13

主な機能

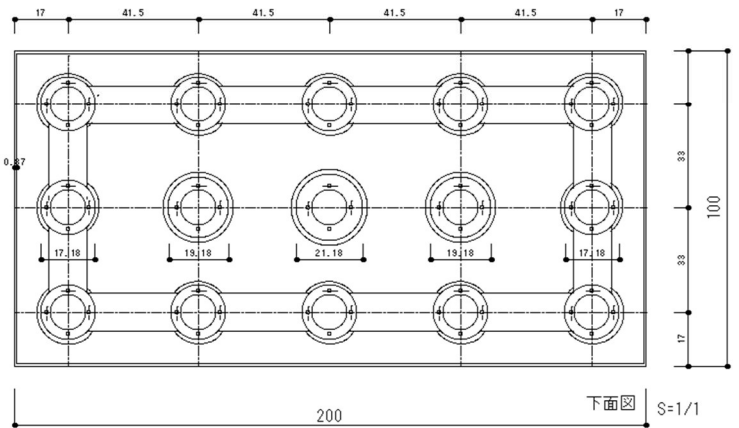
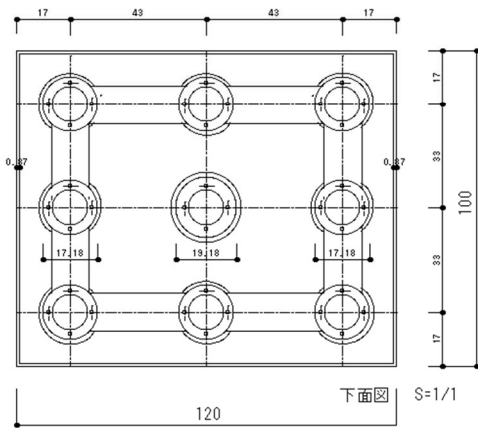
- ・摩擦アイソレーター機能（免震）
- ・シロアリ、カビ対策、高規格住宅等
- ・ネコ土台（見附面積=16.18 c m 2）



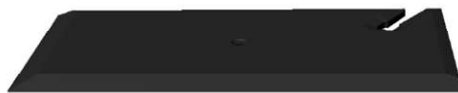
CAT-V12



CAT-EPV



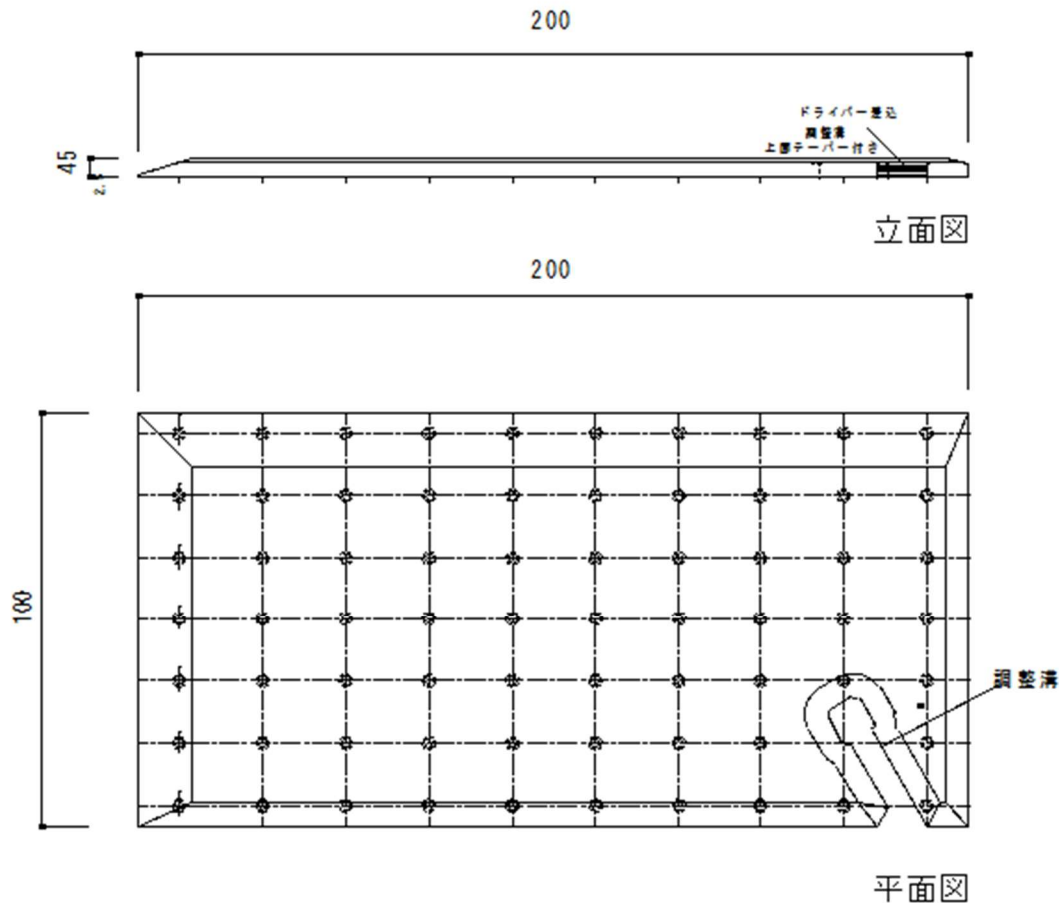
(2) 基礎断熱、気密用



基礎断熱用「CAT-EPA」 $h = 4.5$

主な機能

- ・摩擦アイソレーター機能（免震）
- ・スリット断熱機能



2、アンカーボルト、ナット、座金及び削孔径の規格

- (1) アンカーボルトは、M12、JIS B1180 及び JIS B1051 強度区分 4.6 (Z マーク金物) 及び同等品以上を標準とする。
- (2) 一般根太組構造に使用する「めり込み座金」は $\phi 45$ 厚 4.5 mm Z 規格加工品 (株式会社タナカ製 CAT-FIXW) とし、ナットは M12、Z 規格同等品以上に緩み防止機能を施した、ナイロンナット同等品以上を使用するものとし、削孔径は、 $\phi 24$ を標準とする。
- (3) 剛床・根太レス工法に使用する、座金ナットはザボレス (株式会社タナカ製) 同等品以上とし、その削孔径は $\phi 24$ を標準とし、ナットの緩み対策として、座金ナットの座金部分を半分以上覆うことを原則とし、合板等の無い部分は、根太組床同様に「めり込み座金」CAT-FIXW 及び「ナイロンナット」同等品以上を標準とする。

3、ホールダウン金物用アンカーボルトの規格

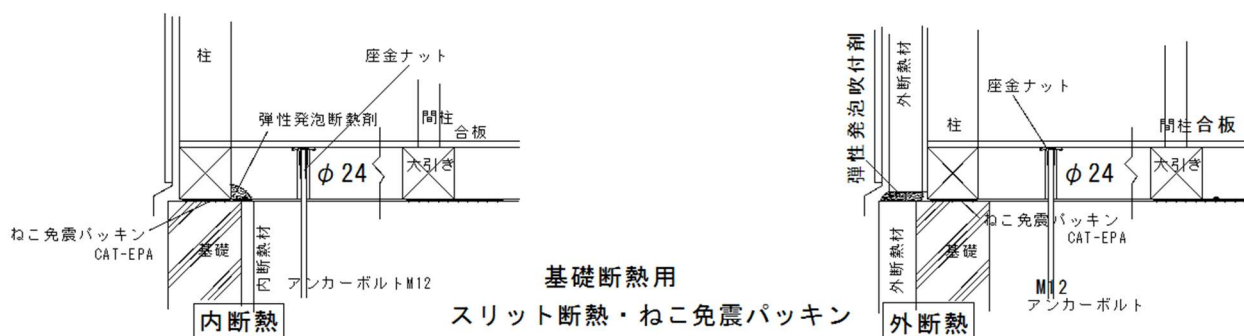
ホールダウン金物に使用するアンカーボルト孔及びアンカーボルトの仕様は次による。

- (1) ホールダウン金物に使用するアンカーボルトは、M16、JIS B1180 及び JIS B1051 強度区分 4.6 (Z マーク金物) 及び同等品以上を標準とする。
- (2) アンカーボルト M16 の孔径は、 $\phi 28$ を標準とする。

4、ねこ免震パッキン、施工標準図

- (1) 床下通気、CAT-EPV、CAT-V12

- ⑤お風呂場の寒さ対策は、浴室の壁、床下、バスタブ等の断熱で対処するものとし、部分的に床下基礎断熱で処理する場合は、設計者及び工事監理者の承諾を得て、防腐、防腐処置をしたうえ、ねこ免震標準仕様書基礎断熱仕様と同等以上とし、木材乾燥に留意し、メンテナンス可能な構造とする。



5、ねこ免震パッキンの固定方法

- (1) ねこ免震の固定に使用する接着剤は、酢酸ビニール系接着剤はセメダインコンクリメント同等品以上とする。
- (2) 床下通気用 CAT-EPV の固定法は、基礎天端面の汚れを落とした後、床下通気用 CAT-EPV の場合は、下部 4 隅の 4 か所の円柱底の外側に 1 c m 程度、酢酸ビニール系接着剤を塗布して基礎の所定の場所に接着する。
- (3) 床下通気用 CAT-EPV の場合で、安定性の悪い箇所がある場合は、適宜接着個所を増やし施工性を向上させる。
- (4) 基礎断熱用 CAT-EPA の固定法は、下部 4 隅の 4 か所の 1 c m 程度内部に φ 5 m m 程度、酢酸ビニール系接着剤を塗布して基礎の所定の場所に接着する。

6、アンカーボルト孔の土台削孔

- (1) アンカーボルトの削孔墨は、アンカーボルトの根本位置を土台下に出し、削孔は土台を返して土台下から削孔する。
- (2) アンカーボルトの土台削孔径は、アンカーボルト M12 の場合は φ 24, M16 の場合は φ 28 を標準とする。
- (3) 特殊な金物によるアンカーボルトは設計図書又は工事監理者の指示により施工する。
- (4) ボルトナット等の緊結に使用する電動工具は特に指定しないが、トルク 100N・m～300N・m のインパクトレンチ等が作業効率が良い。
- (5) 座金ナット等緊結時に、インパクトレンチ等の過剰トルクで土台が変形した場合は、土台にひび割れなどの変状が無い限り、ナットを緩めてレベルを調整しても良いものとし、土台に変状の恐れがある場合は、栈木、パッキン等で変形を抑えながら施工するものとする。

7、ねこ免震パッキンの設置個所

- (1) 通気用「CAT-EPV」、「CAT-V12」の標準設置個所はつぎによる。
 - ① 全ての基礎上の柱下には「CAT-EPV」(100×200)を設置する。

ただし、袖壁端、隅壁端その他設置不可能な個所には「CAT-V12」(100×120)又は適宜カットして使用することができる。

② 根太レスの場合は、基礎上の全ての大引き受けに設置し、根太床組の場合は、大引き受け又は、約910mm間隔に「CAT-V12」(100×120)を設置する。

③ 基礎上の土台つなぎ下に「CAT-V12」(100×120)を設置する

(2) 基礎断熱用「CAT-EPA」の標準設置個所はつぎによる。

① 全ての基礎上の柱下には「CAT-EPA」(100×200)を設置する。

ただし、袖壁端、隅壁端その他設置不可能な個所は適宜カットして使用することができる。

② 根太レスの場合は、基礎上の全ての大引き受けに設置し、根太床組の場合は、大引き受け又は、約910mm間隔に設置する。

③ 基礎上の土台つなぎ下に設置する

(3) ねこ免震パッキンの設置は、アンカーボルト類に1cm以上離れた基礎上に設置するものとし、長短の辺の向きは指定しないが、「CAT-EPA」については、切り欠き部(ドライバー等で位置の調整ができる溝)が内側(部屋内側)になるようにすると作業性が良い。

(3) ねこ免震パッキンが、アンカーボルト類に1cm以内に接触する場合、又は基礎からはみ出す恐れのある場合は、100mm以内の範囲でベビーカッター、高速カッター等で切断し、カット箇所は、1mm以上の面を取ったうえ、金ヤスリ、紙ヤスリ等で滑り良く補修する。

8、レベラーの強度及び不陸調整板等の使用は原則禁止

基礎天端レベラーを使用する場合は圧縮強度28日材齢28N/mm²以上を標準とし、基礎面に不陸が確認された場合は直ちに補修をした後に、土台敷及びねこ免震材の敷設を施工する。

ただし、工事監理者が認めた場合は土台敷設時に市販のプラスチック製不陸調整プレートを使用できる。